





供 覧 書

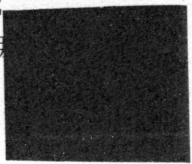
管理番号 R03-241724

保存 年限	共有 区分	情報 区分	取扱要領	開示請求状況
3	所属内	Ⅱ		2022.1.28 付請求
第1ガイド 07動物管理		第2ガイド 01動物管理全般		簿冊・フォルダー 事故届
供覧区分	収 受 日		起 案 者	所 属 動物愛護指導センター 普及指導課 職氏名 所長補佐兼課長 坂井 喜子
所長	処 理 期 限			
	作 成 日	令和 4年 1月27日		
標 題				
那須サファリパークで発生した特定動物（ベンガルトラ）による事故の報告書等について				
所長				
	所長補佐 (総括) 			
	所長補佐兼 普及指導課長 ✓	課員		
	所長補佐兼 愛護管理課長 	課員		
このことについて、令和4年1月5日付けで指導票等を交付した事項に対し、別添のとおり報告書及び改善計画書の提出がありましたので供覧します。				

令和4年1月26日

栃木県愛護指導センター
所長 町田 剛 様

栃木県那須郡那須町高久乙 3532
株式会社東北サファリーパーク
代表取締役 熊久保 信重



弊社特定動物飼養施設内で発生した特定動物（ベンガルトラ）による人身事故について

令和4年(2022)年1月5日付動愛セ第102号において通知を受けた内容につきまして、動物の愛護及び管理に関する法律第33条に基づき下記の通りご報告いたします。

記

1. 標記事故発生に至った原因及び経過について

(1) 事故発生日時 令和4(2022)年1月5日 午前8時25分頃

(2) 事故発生場所 那須サファリーパーク内、トラ舎内(許可番号 栃木県動愛セ第009-015号)

(3) 被害者氏名  (職員A)

 (職員B)

 (職員C)

(4) 危害を加えた動物 ベンガルトラ オス(愛称:ボルタ、2011年6月7日生)

(5) 事故の状況

当日の朝、電気柵などの点検の為トラの放飼場内に入ろうとしたところ、扉が凍結で開かなかった為、職員Aがトラ舎内の動物用通路を通り放飼場に出ようとして扉の操作を行った。

キーパー通路側の扉を開け、続いて動物用通路の扉を開けた所で、本来寝室にいるはずのトラが動物用通路より現れ、キーパー通路まで出て来てしまった。その後、トラがキーパー通路内で職員Aに乗りかかった。

職員Aの声を聞いた職員がかけつけ、救出しようとしてトラ舎内のキーパー通路に入り、途中で職員Aは助け出したが、職員C、職員Bが相次いで負傷。職員Bは脱出したが職員Cが取り残された状態となる。その後麻酔銃によりトラを不動化させたのち、職員Cを救出した。

尚、前日の入舎作業時にトラを寝室まで入れた確認ができていない為、寝室ではなく動物用通路にいた可能性が高いと考えられる。



(6) 事故時の作業手順

- ① 1月4日夕方(16時40分頃・営業終了後)、動物舎への収容(以下「入舎」という。)の際に2名1組で行うところを、放飼場から動物用通路に入れた時点で1名が持ち場を離れ1名での作業になってしまった。
- ② 前日の飼育担当者はトラが寝室に入っているのを確認しておらず、また、1月4日に入舎した職員が確実に当該トラを入舎させたことに記憶が曖昧であることから、実際にはトラは放飼場と動物舎の個室をつなぐ動物用通路にいたと考えられる。
- ③ 1月5日朝(8時13分頃・営業開始前)、「飼育手順マニュアル」では、トラを放飼場に出す(以下「出舎」という。)前に放飼場の点検を行うが、当日は、放飼場内に職員が点検するために通常使用する出入口の扉が凍結のため使用できなかったことから、動物舎内から動物を収容していない部屋と動物用通路を経由して電牧点検のため放飼場内に入ろうとした。
- ④ 最初に被害に会った職員Aは動物用通路に入る際に、トラの所在について確認をしていなかった。ワイヤー操作前に目視できる範囲で獣舎及びアニマル通路側を確認したが、その時はトラが死角におり、気がつかず全開にした。
- ⑤ 事故の発生を事務所に連絡する前に救出作業に取りかかった。
- ⑥ 救出に向かった職員が被害者を救出するためにトラがいる管理エリアに入った

(7) 事故時前後の作業手順の検証

事故時の作業手順を「飼育手順マニュアル」(2020年1月5日時点)に照らし検証すると以下のとおり結論

- ・ (6)①: ホワイトライオン・ライオン・トラの出入舎等は必ず2名で行うべきところ遵守でなかった。
- ・ (6)②: 動物の収容に当たり、アニマル通路側 の扉を開け動物を獣舎にいれる(収容7)、獣舎に入った動物を再度確認する(収容9)を遵守しなかった。施設点検表・飼育作業日報に通常業務の記録はされていたが、担当者がトラを獣舎に入れたことを確認しておらず、その確認作業を行うことを忘れていたため、事実と違う内容で記録されており申し送りもされていない状況であった。
- ・ (6)③④: 通常と異なる通路から電牧の確認のため放飼場に入るといふ、マニュアルには記載されていない動きになったが、その際の作業手順および安全確認が不十分であった。
- ・ (6)⑤⑥については、マニュアル等には定めがない部分である。

2. 飼育員や従業員の飼養保管に関する安全確保対策について(事故発生時点)

- (1) 危険を恒常的に回避するマニュアル等(以下「安全マニュアル等」という)の整備状況
 - ・ (特定動物) 飼育手順マニュアル(別添参照)
 - ・ 危険動物(猛獣)等脱出対策マニュアル(別添参照)
 - ・ 新人研修資料(別添参照)
- (2) 動物の種類による、それぞれの特性や危険性に配慮した、飼養または保管に係る作業の遵守状況及びその記録類
 - ・ 猛獣舎点検表(別添参照)
 - ・ 飼養施設及び動物の点検状況記録台帳(動物取扱業・参考様式第9)
- (3) 安全対策マニュアル等に即した作業手順に係る研修及び訓練の実施状況
 - ・ 新人研修参加名簿(別添参照)

- ・特定動物飼育担当者については、配属時に飼育手順マニュアルの配布および説明を実施
 - ・緊急時訓練については実施なし
- (4) その他安全確保に必要な対策がある場合はその内容
- ・他園にて事故が発生した場合は事故内容の周知および注意喚起、作業手順の再確認を実施
 - ・事故報告書の作成（ヒヤリハットの報告とその対応を周知）

3. 今後の対応

- (1) 今般の事故は、飼育手順マニュアルの遵守徹底により未然に防止できた、もしくは、回避できた事象です。このことから、今後、従業員を対象に飼育手順マニュアルの内容について、継続的かつ定期的に従業員教育をし、連続したヒヤリハットを事故発生に繋がらないよう対策を講じます。
- (2) 安全面をより重視した内容へのマニュアル類の見直しと改訂（1月22日改訂済）
- (3) 動物舎内の視認性の向上のため柵に設置した鉄板を撤去、及び放飼場の点検用扉の改修（変更許可申請済み1月25日申請、26日許可）
- (4) 社内での安全委員会の設立および運営により定期的な情報収集およびフィードバックの実施詳細については改善計画書に記載します。

飼育手順マニュアル(2021)

1. 肉食動物 ホワイトライオン・ライオン・トラ

※獣舎内の点検、出入舎、清掃、補修は必ず2名で行うこと

(不測の事態が起きた場合、外部と連絡をとるため。2名でお互いに扉の閉め忘れ施錠の確認し安全に作業するため。)

※前室の扉、動物舎に入る扉は鍵を開け中に人が入ったら必ず内側から閉めること(獣舎から脱走してしまっても動物舎から動物を外に出さないため。)

放牧

- 1) 放飼場の施設の確認、電牧の確認 (A 1名)
(破損等ないか、草やクモの巣がかかっているか)
- 2) 動物舎へ入るときは動物がキーパー通路(管理通路)に出ていないかを前室で確認し動物に声をかけてから鍵を開ける (B 1名)
- 3) A 確認が終わったら B へ電牧の電源を入れるよう無線を入れる
(A チェッカーで電圧の確認◎以上の電圧、漏電箇所ないか確認)
- 4) A 確認が終わったら B へ電牧の電源切るように無線入れる
(ライオン展示場のみ電牧の電源切らない)

※ライオン舎のみ

- ・3番ゲート(ライオン展示場ゲート)担当者から「準備OK」の無線入り肉食担当者(B 電牧の電源を入れた人)が了解する
 - ・ライオン舎から肉食担当者(B)が3番ゲート(ライオン展示場ゲート)の展示場側の2枚の扉が閉まっていることを目視で確認する
- 5) A と B が動物舎で合流し電牧の電源を入れる(ホワイト舎・トラ舎)
 - 6) キーパー通路側の扉に鍵がかかっていることを指差し確認する

※ライオン舎のみ

- ・3番ゲート(ライオン展示場ゲート)へ「ライオン出舎します」と肉食担当者から無線を入れ了解をもらう
- 7) アニマル通路側の青色・赤色の扉を開け1頭ずつ放飼場の扉を開け放牧する
- ※ホワイト・トラ・ライオン全部が出舎完了したら事務所に「出舎完了」の無線を入れる

清掃

・全頭放飼場に出している場合

- 1) 放飼場側 ■■■■■ アニマル通路側 ■■■■■ の扉が閉まっていることを指差し確認する
- 2) アニマル通路に入る場合は一緒に掃除している人を開けることを伝えてから扉を開ける
- 3) キーパー通路側 ■■■■■ 扉を解錠し扉を開ける
- 4) 清掃・藁を敷く
- 5) キーパー通路側 ■■■■■ 扉を閉め施錠する
指差し確認する
- 6) 全室に施錠されていることを指差し確認し点検表に記入する
- 7) 出入口の鍵をかける
指差し確認する

・ 獣舎に動物が居る場合

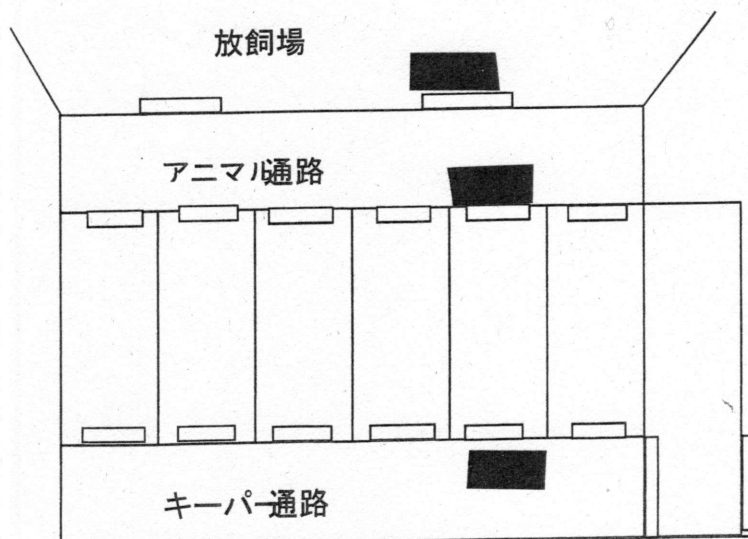
動物を移動させ動物から2枚以上扉がある状態にして清掃を行う。1枚扉になってしまふ場合には1カ所ずつ清掃し、決して動物を視界から離さず背中を向けない。不用意に動物側の柵に近付かない。檻越しに出てくる手並びに爪に注意する。

- 1) 動物を移すアニマル通路または獣舎に隣接する扉が余計に開いていないか指差し確認する
- 2) 一緒に清掃している人に動物を移動させることを伝えてから移動する
- 3) キーパー通路側 [] の鍵を開け扉を開ける
- 4) 清掃・藁を敷く
- 5) キーパー通路側 [] の扉を閉め鍵をかける
指差し確認をする

動物観察・餌作り

収容

- 1) 動物舎へ入るときは動物がキーパー通路に出ていないか前室で確認してから鍵を開ける
- 2) エサ入れ口の扉を開けエサを入れる
- 3) 放飼場側 [] アニマル通路側 [] の扉が余計に開いていないかを指さし確認する
- 4) アニマル通路に出ている動物を先に1頭ずつ獣舎に入れる
- 5) 放飼場側 [] の扉を開け1頭ずつアニマル通路に入れる (1頭が入ったら必ず放飼場側 [] の扉を閉める)
- 6) アニマル通路側 [] の扉を開け動物を獣舎に入れ扉を閉める
- 7) 2) 3) 5) 6) の繰り返しで1頭ずつ獣舎に入れる
- 8) 獣舎に入った動物を再度確認
- 9) 電牧の電源を切る
- 10) キーパー通路側 [] の扉の鍵がかかっているかを指さし確認
- 11) 動物舎の前室に鍵をかける
指差し確認する
- 12) 施設点検表・飼育作業日報を書き飼育部長に提出



2. 大型草食動物 キリン

放牧

- 1) 放飼場の施設の確認 (破損等ないかを確認する)
- 2) 動物舎の鍵を開け動物に声をかけてからキーパー通路に入る
- 3) 動物の状態を確認、動物舎の温度を確認
- 4) キーパー通路から出てパドック側(キーパー用扉)の鍵を開けパドックに入る
- 5) パドックと放飼場の間の扉を先に開け、獣舎とパドックの間の扉を開ける
(注) 1. 動物に声をかけながら扉を開ける
2. 動物はいつどのような状態になるかわからないので動物から目を離さず、自分の逃げ場所は確認しておくこと
- 6) パドックと放飼場の間の扉を閉め施錠し指さし確認

※パドック出舎

- ・自分の逃げ場を確保しておく(隣の獣舎内、キーパー用扉)
- ・獣舎の扉を開け逃げ場に移動し出舎確認

- 7) 獣舎とパドックの間の扉を閉める

※パドック出舎

- ・動物の動きを見ながら獣舎の扉を閉める(パドック側から、獣舎内から)
- ・パドック側(キーパー用扉)施錠する

清掃

- ・放飼場に全頭でている場合

- 1) パドックと放飼場の間の扉が閉まっていることを確認する
- 2) 動物の寝室を清掃する

- ・パドックに動物がいる場合

- 1) 獣舎とパドックの間の扉の鍵がかかっていることを確認する
- 2) キーパー通路側から寝室に入り清掃する

収容

- 1) 動物舎に入り、各寝室に餌を入れる
- 2) パドック側(キーパー用扉)から入り先に入れる個体の獣舎とパドックの間の扉を開ける
- 3) 動物の動きを見ながらパドックと放飼場の間の扉を開ける(パドックには1頭ずつ入れる)
- 4) 動物が獣舎に入ったら扉を閉め施錠する
- 5) 2)～4)を繰り返し全頭入れる
- 6) 放飼場とパドックの間の扉を閉め施錠し指さし確認(獣舎の鍵も確認)
- 7) パドック側(キーパー用扉)から外に出て扉を閉め施錠し指さし確認する
- 8) キーパー通路側から動物舎に入り動物の最終確認をする
- 9) 施設点検表・飼育作業日報を書き飼育部長に提出

3. 大型草食動物 サイ・カバ

放牧

- 1) 放飼場の施設の確認（破損等ないかを確認する）
- 2) 動物舎の鍵を開け動物に声をかけてからキーパー通路に入る
- 3) 動物の状態を確認、動物舎の温度を確認
- 4) キーパー通路から出てアニマル通路の引き扉の解錠し扉を開ける（動物に声をかけながら）
- 5) アニマル通路と放飼場の間の扉を先に開け、獣舎とアニマル通路の間の扉を開ける
(注) 1. 獣舎とアニマル通路の間の扉の裏に入り動物とは扉越しの状態にする
2. 動物はいつどのような状態になるかわからないので動物から目を離さない
- 6) アニマル通路と放飼場の間の扉を先に閉める
- 7) 獣舎とアニマル通路の間の扉を閉める、アニマル通路の引き扉を閉める

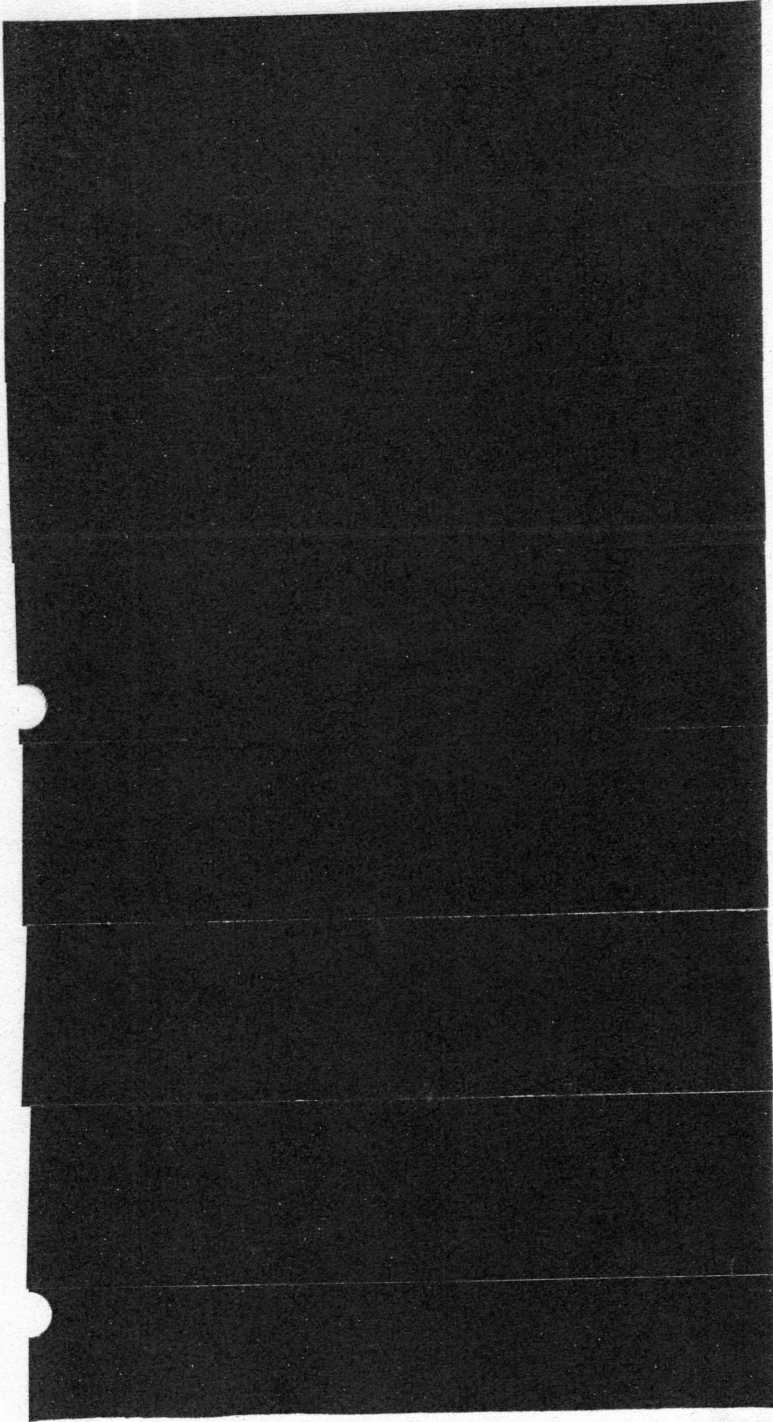
清掃

- ・寝室を清掃・水洗いする

動物観察・餌作り

収容

- 1) 動物舎に入り、各寝室に餌を入れる
- 2) アニマル通路の引き扉を開ける
- 3) 獣舎とアニマル通路の間の扉を先に開けておく
- 4) 動物の動きを見ながら放飼場とアニマル通路の間の扉を開け動物を入れる
- 5) 獣舎とアニマル通路の扉を先に閉める
- 6) アニマル通路と放飼場の間の扉を閉める
- 7) アニマル通路の引き扉を閉め鍵をかける、指さし確認
- 8) 2)～7)を繰り返し全頭入れる
- 9) キーパー通路側から動物舎に入り動物の最終確認をする
- 10) 施設点検表・飼育作業日報を書き飼育部長に提出



※大型草食獣担当の動物を出舎させたら事務所に「出舎完了」の無線を入れる